

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200467		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松富塚(櫻ユニット・葵ユニット合同)		
所在地	静岡県浜松市中区富塚町628-1		
自己評価作成日	平成27年9月15日	評価結果市町村受理日	平成27年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kami=true&jiyosyoCd=2297200467-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは湖に程近く、毎年春には部屋の窓からきれいな桜をご覧になることができ、スパーや公園にもほど近い、閑静な住宅街に位置しています。職員は「その人らしい」生活をサポートする為、ご利用者が出来る家事を行なう環境作りや声掛けを取り組んでいます。ご家族へは、毎週写真付きのメールを送信して、ご利用者の日頃の様子をご覧になり、毎月のお便りにてご案内、行事に参加できる時、一緒に過ごす時間を設けさせて頂いています。ご家族とご利用者が、季節を感じ楽しんで頂ける様、行事には地域の皆様のご協力を頂いています。また、当ホームの敷地内に呼吸器内科の協力医、付近には消化器内科の協力医、付近にも総合病院があり、医療面も早期対応が可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この一年で地域との関係が格段に挙がり、大いに成果を生んでいます。これまでは回覧板告知のみだった納涼祭はチラシ400枚を作成、ポスティングや案内看板のほか直接手渡しす努力が実り、昨年の7名から一挙に50名と来訪者が増えました。他にも「スポーツがやりたい」と言う利用者と協働センター内のクラブに下見に出かけ、それを契機としてハーモニカ愛好者が事業所に訪れるようになりました。学校への働きかけは職場体験に結ばれ、現在は2校が入りしています。隣接介護施設とも行事交流が図られ、法人発行の冊子『ツナガリ』は区役所ほか行政関連施設に置かせてもらえないか検討をお願い中で、ご縁は拡がり続けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念とクレドの内容についてを朝礼時に唱和し、職員間共有し、個々が念頭に置き、意識して働いている。各ユニットはリーダーが中心となり、疑問点について、全員で考え、解決出来るようにしている。	新採職員が多いこともあり、接遇マナーを含みじっくり教えるなか、理念への共通理解が進んでいます。ユニットリーダーが中心であっても問題解決は職員全員であたっており、ポジティブ・ネガティブ用語が職員トイレ面に貼られている様子からも、品質向上への意欲が覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のボランティアによる催し等、行なって頂いている。年1回の納涼祭や学校の職場体験を積極的に受け入れている。出来るだけ地域の方々をホームに足を運んで頂けるように行事を工夫している。また、ご利用者と散歩や買い物、イベントを通じて地域の方と接する機会を設けている。	これまでは回覧板告知のみだった納涼祭はチラシ400枚を作成、ポスティングや案内看板のほか直接手渡したりとの努力が実り、来訪者は昨年の7名から一挙に50名へと増えました。当日はタクティール(認知症緩和マッサージ)を披露し、30名余の皆さんに喜ばれました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域イベントへの参加、当グループホームの情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・地域包括、ご家族が2か月に1回運営推進会議にご参加して頂き、意見交換を行なっている。	職員には生活記録を写真に収めることを奨励し、ふんだんに家族へメール配信していることから面会の頻度が上がっています。そのため家庭環境が考慮できる関係が出来、直接相談ができていて、法人冊子『ツナガリ』の発送や訪問マッサージが実現しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、当グループホームの情報・サービス内容を伝えている。また、定期的に訪問し、相談をさせて頂いている。	区役所には毎月必ず顔を出し、事故だけでなく小さなアクシデントもすべて報告しています。法人発行の冊子『ツナガリ』は区役所ほか行政関連施設に置かせてもらえることになり、また地域包括支援センターからは民生委員の施設見学会への打診もありました。	キャラバンメイトの講習を受け貢献したいとの意欲をもつことから、依頼を待たずに行政へ申告してみることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を厳守し、全体会議・ユニット会議で研修を重ね、ユニット内で話し合う機会も設け、全職員意識づけを行なっている。玄関等も夜間以外の施錠はしていない。また、ご利用者の所在確認と見守りの徹底をしている。	施錠は洗濯室以外なく、戸外へ気持ちか向く人には職員が付き添い、本人が納得するまで歩いています。受診介助を職員がおこなうことで手薄になる時間帯があるため、一人でも見守れる心づもりを職員も持つようにはしていますが、非常階段には鈴をはじめ音が出る工夫があり、1階にはセンサーが取付けてあります	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待についての勉強会を実施し、各ユニットでは、リーダーと職員は話し合う機会を設け、全職員日々虐待防止に努めている。また、朝礼でも職員に虐待について話して、意識して働いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利擁護についての勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、十分な説明、相談し、意見や質問を受け、理解して頂けるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご利用者、ご家族に意向を尋ね、毎週写真をメールに添付し、送信して、意向を尋ねる機会や場所を幅広く設け、毎年ご家族アンケート実施し、サービスの向上に努めている。	毎月発行の『ご家族様だより』には運営推進会議の案内を付記し、参加を促しています。面会の頻度も増えたことで交流が深まり、家庭環境が考慮できる関係が出来ているため、直接相談ができていて、法人冊子『ツナガリ』の発送や訪問マッサージが実現しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議を毎月各1回必ず行なっている。法人グループにて、職員アンケート実施している。また、日頃から職員が上司に話しやすい雰囲気・環境を心掛けている。また、各会議等で職員の意見聞く機会を設け、運営に生かせるように努めている。	普段からストレス緩和のためにも話し合う場を設けていますが、ユニットリーダーに権限委譲しての意見集約が功奏し、声が集まるようになっていきます。主には利用者のことで、例えばカーテンを開けて朝陽を入れると起床時の精神的安定が得られたこともあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価を年1回実施し、定期的に面談も実施し、ユニットリーダー・ホーム長から個別指導を行なっている。また、職員と話しやすい環境作り、随時意見・相談を受け付ける職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、内部研修を実施している。また、新入職員にはチェックリスト・交換ノードを使用し、職員の教育を行なっている。外部の勉強会にも参加出来る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	責任者は近隣の同業者への見学や話し合いを定期的に行なっている。防災訓練も一緒に行なっている。また、在宅で介護困難のご家族から相談があった際、他業者とも連携を取って、本人に合うサービスを提供出来るように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時、職員とホーム長が直接ご本人にお会いして、アセスメントやご家族から情報収集に努め、時間かけてご本人とご家族の意向を理解し、意向に添えるようにサービスを提供するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居時相談の段階から、相談をを重ね、入居後、ご家族と細目に連絡を取り、面会時に詳細に状況を伝えるよう努め、ご意見、要望等を聞きつつ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況や、ご家族の要望を十分に理解して、必要なサービスを職員全員で話し合い、適切なサービス内容を見極めて、ご意向に添えるようなサービスを提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・料理・買い物を手伝って頂いて、ご本人が得意な手芸・知識を教えて頂き、職員と共有できることを大切し、良い関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子をお伝えしたり、受診の相談や依頼等行なっている。また、毎月1回のご家族便りにご本人の写真・行事案内を含め、家族の協力の必要性・重要性を都度お伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所への散歩やドライブ等、また、通い慣れた病院等への通院を継続することで、馴染みの人や場所との関係が途切れないように、これまでの生活を大切にしたいサポートに心がけている。	「楽器博物館でピアノを弾いてきた」報告から職員がギターを持ち込んだところ嬉々として演奏してくれた例や、銀行勤務だった人は元々株に関心があったことが分かり、類する書籍を用意したところ皆と過ごす時間が増したこともあり、またオートレースが趣味の人には家族の許可を得てでかけることもあります	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場でご利用者同士の関係作りを大切にし、日々の散歩・体操・買い物等、活動時2から3人の少人数で参加して頂く等、ご利用者同士が関わり、必要性あれば職員も参加して良い関係作りを行ない、支え合えるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居されたご利用者には定期的に面会等行なっている。また、ご家族への電話連絡で経過フォローや相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あらゆる場面のさりげない会話、必要性あれば職員と1対1の時間・場所を設け、ご意向を十分に把握に努めている。	「今日は誰が(職員)いるの?」という利用者の思いを受け、当日勤務者を写真入りのカードで示すようになりました。「ビールが飲みたい」「コース料理が食べたい」との存意は実現させるほか、こちらから働きかけての意見収束もおこない、ユニット会議にも参加してもらうこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントで生活歴を十分に把握する、ご家族にも今までの生活について書面に記入して頂き、できるだけ詳しい情報を頂けるよう努めている。また、入居後もご本人やご家族、面会の友人等からも情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報や、介護記録、申し送りノート、バイタルチェック表、水分量チェック表等活用し、現状の把握と情報共有に努めている。普段と違うご様子の場合、主治医に報告して、早期対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて話し合っている。参加が難しいご家族に対して、面会時や、電話にてご意見を頂いている。気づきシートを使用して、全職員が気付いた事について毎月の会議で話し合い、定期的に計画作りに努めている。また、入院やご利用者に変化がある際、計画を見直している。	ケアプランの検討では家族との直接面談を重要に考え、変更時も同様にしたところ、相互理解が深まるとの効用がありました。継続も大切にしていきますが、変革にもチャレンジして段取りや方法を替えていて、本年末には新しい気づきシートの導入も予定されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や、介護記録、申し送りノート、バイタルチェック表、水分量チェック表等活用し、朝礼にて申し送りして情報共有に努めている。また、毎月必ずユニット会議でご利用者のケア方法に対して見直しを行ない、個別対応を協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応する方法を、職員全員で常に検討し、取り組んでいる。問題点や必要性があれば、その都度上司と相談して、迅速に対応出来るように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームの裏の公園や近所にスーパー、車で湖周辺等へ出掛け、季節感を感じて頂いたり、買い物等での楽しみを感じて頂けるよう努めている。また、ご利用者が使用している日用品は出来るだけ、ご本人に選択して頂くように工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの敷地内に呼吸器内科の協力医、付近には消化器内科の協力医と連携をとっている。また、ご家族の協力を得ながら、通院介助を行なっている。ご利用者に適切な医療を受けられるように支援している。	隣に内科医院がありレスポンスの早さからアドバイスを求めていましたが、家族からの提案もあり消化器内科と呼吸器内科の両方を協力医にもつことになりました。看護師が週2回訪れ、また受診は職員が付き添うため、薬の管理や健康状態の把握がスムーズとなり、急変時にも安心があります。	医療連携が整い環境としては良好ですが、家族が「知らなかった」ということがないよう、説明をはじめ医療開示を十分おこなうよう期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面に関しては、日々関わる職員が直接雇用の看護師に相談し、必要性あれば、主治医から指示を頂き、情報の共有をしながら、適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、情報提供して、安心して治療を受けて頂けるように努めている。また、医療関係者と相談し、経過は十分に把握して、ホームが協力出来る事を提案している。ご家族にも定期的に報告をしている。また、往診医と連絡体制を密に取り、協力関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に家族と相談出来る環境作りを行ない、状態の変化を常に報告して、ご意向に添えるような対応に努めている。地域の医療施設等関係者ともに相談しながら支援している。	家族には契約時に一度説明していますが、本人の心身状態に変化があればその都度所見を確認しています。「此処で最期まで」との家族の気持ちと職員の「看取りたい」との想いは重なっていますが、未経験者が大半のため体制整備が課題です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED・吸引ノズルの使用方法について、職員が定期的に勉強する機会を設けている。また、急変時や事故発生時の事に備えて、定期的に夜間連絡訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行なっている。災害時の対応についても内部研修で学習している。災害時の地域避難場所として使用できると地域の方に発信している。また、防災訓練は近隣の介護施設と共同で行なっている。	本年は隣接施設と合同で大規模な防災訓練がありました。火事が起こったとのアナウンスから全員『櫻の園』に徒歩(杖)、車椅子で移動し、その際非常階段もつかい本番さながらにおこないました。移動に15分かかってしまったため、次回に向け協議中です。	AEDの講習会は毎年1回必ずおこなっていますので、ぜひ地域に向けた公開とすることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナー等、勉強会を通じて、常に意識できるように話し合っている。	「今日は掃除の日」と決めず、むやみに居室に出入りをしないようにしてプライバシーを守っています。そのため本人から意向がなければ、「手伝ってもいい？」と職員から声をかけています。男性職員の比率が高く、同性介助は難しい状況にありますが、現状困ることはありません。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや、傾聴にてご利用者の要望を聞きながら、分かりやすく選択できるように支援している。また、選択出来る機会と環境作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の現在の生活習慣や状況を把握しながら、一人ひとりのペースを大切に、ご意向に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、散髪時の髪型、飲み物の選択、外出した際、食事の内容等、出来る範囲でご意向を伺うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒に出掛け食材を選んで頂いたり、テーブル拭き、おしぼり作り、盛り付け、後片づけ等出来る範囲で、ご利用者に参加して頂けるよう支援している。また、出来るご利用者には味噌汁作って頂いたり、月1回のユニット調理でご利用者が自ら主食を作ってもらって、食事の楽しみを感じられるように努めている。	本部の管理栄養士作成のメニューに基づき、2名の調理師が担当しています。テーブル・食器拭き、おしぼりたたみ、味噌汁作りと利用者はあらゆる場面で活躍しており、ランチョンマットも手作りです。遠方での外出には近くのスーパーで作ってもらおうお弁当も楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を活用しながら、個々の状態に合わせて支援している。水分摂取困難のご利用者にはご家族に協力して頂き、OS-1・アイス・ジュース・お茶漬け等購入したり、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて、声かけ支援し、毎食後口腔ケアを行ない、清潔保持に努めている。また、訪問歯科と連携取り、定期的に医師から治療・助言を頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の習慣・排泄パターンを把握している。日中は声掛けして、トイレ誘導を行なっている。夜間は声掛けにて誘導や睡眠優先等個別に対応している。	自立度が高いためパターンを把握しての見守り程度の関わりですが、夜間は転倒防止のセンサーを利用しています。トイレのマークへの認識がとれない人のために『お便所』『お手洗い』を目線に合わせて貼っています。照明は2種類のを試用しており、今後意見を反映して1本化の予定です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・活動の促しを中心に、下剤の使用は最小限とし、食事内容から便秘改善出来る野菜や乳酸菌を取り入れて、個々の体調や好みに合わせた援助を行なっている。排便作用のあるお茶も活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に声かけし希望やご本人の体調に応じた支援をしている。また、入浴中は個々に合った会話を楽しんで頂けるよう心掛けている。	時節の気温と本人の好みを考慮し、お湯の温度や室温を調整しています。冬には窓からの冷気を感じる人がいたため職員のアイデアで風よけシートを貼り付けました。洗顔クリームや柚子由来の入浴剤は利用者のリクエストで定着しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、個々に合った活動をお誘いして、生活リズムを整え、夜間睡眠を十分に確保できるよう援助している。また、室内は自宅に近い環境作りを心掛け、慣れた環境で安心して安眠できるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルや薬剤録を活用し、内服前に必ず職員2人で確認し、確実に内服できるよう支援している。また、往診時主治医や薬剤師から服薬内容、副作用、注意点等情報提供があった際、必ず全職員に周知できるよう申し送りを行ない、経過観察しながら注意して服薬管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を十分に認識し、個々ができる事等、職員が日々話し合い、アイデアを出し合い、支援をしている。嗜好品や趣味等楽しんで頂けるように支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、買い物は毎日お誘いし、週1回車を使用して遠くまで出かける機会を作り、外出支援を行なっている。また、ご家族が面会に来られる際、散歩やドライブ等に同伴して、ご家族と過ごす時間も設けている。	午後はお出かけタイムと位置付け、近くのコンビニエンスストアやスーパー、ドライブがてらショッピングモールへと足を延ばすこともあります。自宅周辺や欲しい洋服のショップまでと、個々の希望に沿って個別に対応し、最近では「ピアノを弾きたい」利用者を楽器博物館へと支援しました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数ではあるが、ご本人で希望でお金の所持をして、買い物支援をしている。また、個々の能力・希望に応じて買い物時の支払いをご本人に行なって頂く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望のある方は手紙でやり取りが出来るよう援助している。また、ご家族が遠方でお会いする機会が少ないご利用者には定期的に職員から声かけして、本人の希望でご家族と電話のやり取りの支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの掲示物や飾りは季節感・生活感を取り入れた空間作りを心掛けている。また、共用空間がご利用者が不快・混乱にならないように配慮し、全ての表示はご利用者の自尊心を傷つけないように工夫している。	手作り暖簾かかけられ、白い壁に花の写真が鮮やかに映え、いずれも家族の進呈品で温かみが伝わります。間違い探しの絵は室内歩きの最中にも楽しめるようにとの工夫が成され、今回は魚辺の文字に掲示が替わる予定です。温度調整は利用者の手を触って体温を確かめてからおこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアやエントランスにソファを配置して、居心地がいい場所作りに努めている。また、気の合ったご利用者同士が居心地よく過ごせるように、ご意向があった際、混乱が起こらないように最小限の席替えを行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力により、ご本人が馴染みの物品を出来る限り持ち込んで頂き、居心地よく過ごせる居室作りを配慮している。また、危険を事前に予測した上で家具の配置を行なっている。	「これまでと変わらぬ暮らしを」との想いが全体の3分の1となる量の居室に現れています。本名ではなく「太郎です」と名乗る利用者の居室には『太郎』の表札があり、キーボードや冷蔵庫の持ち込みも見られ、近親者のためのお泊り用セットがある居室も視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場、トイレ等、案内表示等工夫しつつ、ご本人が自立した生活が送れるように支援している。		